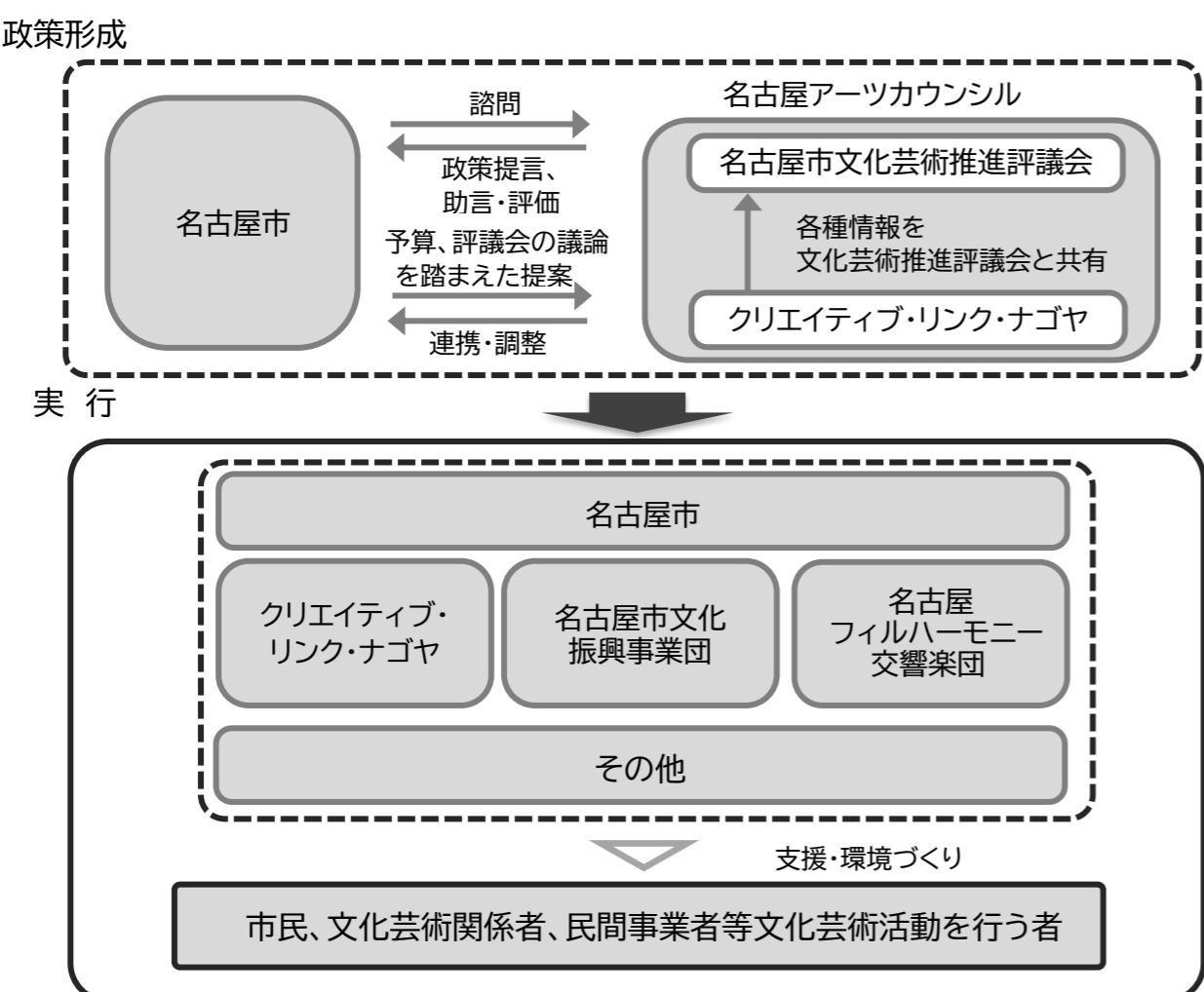


計画期間
令和8（2026）年度から令和12（2030）年度までの5年間

名古屋市文化芸術推進計画 2030(案) 概要版

■ 体制図

本市の文化芸術を推進し、都市の魅力向上を図る名古屋アーツカウンシルを軸に、名古屋市文化芸術推進評議会からの政策提言、助言・評価を受けながら、アーツカウンシルの実働部隊であるクリエイティブ・リンク・ナゴヤと、本市のパートナーである名古屋市文化振興事業団、名古屋フィルハーモニー交響楽団の三者と連携し、文化芸術施策に取り組みます。



■ 評価方法

【KGI:成果の最終目標を定量的に評価する指標】

指標	現状値	目標	出典
名古屋を文化的なまちだと思う市民の割合	70.6%	78%	総合計画 ・現状:R7

■ スローガン

日々に文化を、名古屋に彩りを

今もこのまちの日常に根づく、「芸どころ名古屋」の気風は、独自の文化芸術とともに受け継がれ、社会に活力を生み出し、その力が文化芸術活動をさらに活性化させてきました。

本市は、時代の変化を見据えながら、文化芸術への親しみを広げ、磨き育て、その力を多様な場面で活用し、文化芸術活動を支える基盤を整備することで、日常が文化芸術で満たされ、このまちに根差した文化芸術が持つ多様な価値が生きる、彩りあふれる名古屋を目指していきます。



■ 施策の展開

文化芸術推進三箇条

其の一 文化芸術の振興及び他分野連携を推進します

本市の文化芸術を推進し、都市の魅力向上を図る名古屋アーツカウンシルを軸に、名古屋市文化芸術推進評議会からの政策提言、助言・評価を受けながら、クリエイティブ・リンク・ナゴヤ、名古屋市文化振興事業団、名古屋フィルハーモニー交響楽団とともに、市民、文化芸術関係者、民間事業者の自発的な活動の場を整え、文化芸術の振興及び他分野連携をより一層推進し、文化芸術が創出するさまざまな価値を活かすことで、まちの魅力と活力を生み出します

其の二 多様な文化芸術活動の拠点として文化施設の整備・管理運営を推進します

市民が文化に触れ、学び、表現し、繋がっていく基盤である文化施設について、時代に応じてその役割を果たし続けられるよう、適切な維持保全、改修等を推進します
市民会館はまちに開かれた「新たな劇場」として整備し、誰もが気軽に文化芸術に触れられる中核施設として、貸館事業や自主事業などでの多様な取り組みにより「文化芸術の裾野拡大」を図ります

其の三 文化芸術を支える財源の確保に努めます

文化芸術を継続的に支えるため、国費・県費・民間資金の活用及び個人寄附等により、文化芸術に係る財源の確保に努めます

四つの視点

重点施策(◎)と基本施策(○)

指標

親しむ



◎子ども・若者への文化体験機会の提供

- 文化芸術を鑑賞・体験するための機会確保、充実
- 民間事業者との連携による、次世代に向けた文化体験提供事業の推進

○誰もが等しく文化芸術を享受する機会の拡大

- 文化施設での公演・展示機会の創出
- 多様な層へのアウトリーチ活動
- 文化芸術鑑賞における情報保障

○文化芸術情報の発信力の強化

- 情報の入手環境の向上
- 市民による主体的な情報発信の促進

○文化芸術資源の継承・保存

- 伝統芸能や生活文化・国民娯楽の継承
- 文化芸術収蔵資料の保存

磨き育てる



◎若手アーティストの支援

- キャリア形成支援
- 創作・発表の場の提供

○創造的文化芸術活動及び市民文化芸術活動の支援

- 創造的文化芸術活動の支援
- 市民文化芸術活動を行う方々の活動・発表の場の提供

○文化・歴史資源の活用

- 名古屋の文化・歴史資源を活用した魅力づくり
- 能楽堂の魅力向上
- メディア芸術を活用した魅力づくり

活かす



◎文化芸術を活かしたまちづくり

- 市内における創造的文化芸術活動の創出
- まちなかでの文化芸術活動の推進

○観光、国際交流、福祉等他分野との連携

- 文化・歴史資源を活かした文化観光の推進
- 文化芸術で切り開く福祉と共生社会
- 文化芸術を活かした国際交流の推進
- 子ども・若者への教育における文化芸術活動の充実
- クリエイティブ産業や文化芸術活動を支える産業の振興

支える



◎新たな劇場の整備(市民会館の改築)

- 「新たな劇場の基本計画」等に基づく施設整備
- 新たな劇場を見据えた文化芸術施策の展開
- 「開かれた劇場」の実現

○文化施設の整備・管理運営

- 文化施設の適切な維持保全、改修
- 文化施設の管理・運営及び文化芸術活動の裾野拡大

○文化芸術を支える資金等の活用

- 国費・県費等の活用
- 民間資金の活用
- 個人寄附の募集
- 効率的な資金等の調達や活用に向けた仕組みの検討

<KGI>

△ 名古屋を文化的なまちだと思う市民の割合

※KGI: 成果の最終目標を定量的に評価する指標

<KPI>

①文化芸術をホール、美術館等で直接鑑賞した市民の割合（直近3年間）

②気軽に文化芸術に触れられると感じる市民の割合

③文化芸術情報が入手しやすいと感じる市民の割合

④文化芸術活動を行う市民の割合（直近1年間）

⑤若手アーティストの相談支援件数

⑥文化芸術活動を10年以上続ける芸術家等の割合

⑦全国の文化芸術関連産業の就業者数に対する本市の就業者数の割合

⑧他分野と連携したことがある芸術家等の割合

⑨文化施設利用率

⑩文化芸術施策への寄附金の総額（個人及び法人 *協賛金も含む）

※KPI: 目標を達成するための取り組みの進捗状況を定量的に測定する指標